

平成31(令和元)年度 事業報告

部門名： 総務課

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者が安心して過ごせる環境の維持・管理	○	老朽化した公用車の置き換えに、向陽ヶ丘に1台と地域包括支援センターや在宅介護支援センターの増員による車両不足解消に1台購入しました。また大曲レインボーハイツへエアコン3台を購入し、利用者への熱中症対策へ対応しました。
2. 職員が安心して働ける環境の維持・管理	○	健康診断の実施と、ストレスチェックの実施。
3. 官公庁、取引先等外部との良好な関係を保ち法人を守る	○	法に準じて、規程の改定及び期日までの各種届出、報告書の提出を行った。
4. 新入職員だけではなく、総務課全員のレベルアップを目指す	○	総務課の仕事の幅を広げる目的で、一昨年新入事務職員は3ヶ月配置転換を行った。
5. 新施設へ向けて…より一層の経営基盤の安定	○	経費削減に努めるよう、購入時の相見積もり、必要最低限の物品購入など継続した。
実行方針	結果	備考
1. 防災対策の強化、非常時対応への訓練をすすめる。	○	例年と同じ、避難訓練の実施となった。ふれあい館においては、1回の訓練を昼間の想定にするなど新しい訓練を実施した。
2. 求人活動の促進、現場職員の目線に立ち人材定着の強化を図る。	◎	ハローワーク、市内広報紙、法人ホームページなど求人活動を行った。また、マイナビ求人サイトへの公開も新たに行った。
3. 公正的な視点でご意見番としての役割を果たす。	○	規程に遵守し業務にあたり、規程の変更等も行い各事業所への配布も迅速に対応した。
4. 自分の役割を理解し、広い視野を持って仕事を完璧にこなしていく。	△	報告、連絡、相談し各々の職員が業務を理解し職務にあたった。しかし、柔軟に対応できるレベルまでは至らず完璧な仕事をこなすことはできなかった。
5. 各拠点の資金管理を明確化し、新施設建設に対応するスムーズな資金運用ができるよう努める。	◎	月次資料を期日までに作成し、毎月の管理者会議にて、各事業の経営状況等の情報提供を行った。
定量的な目標	結果	備考
各部門が定量的目標を達成できるよう、全面的にバックアップ！	○	欠員事業所への職員募集の手続き、課の職員でできる人員不足事業所への協力体制、必要に応じた物品購入等を行った。
定性的な目標	結果	備考
各部門がスムーズ且つ効果的に業務を遂行できるよう支援する！	○	外部研修の他、官公庁からの通達文書の配信、送信等、事業の運営に役立てる情報発信など行った。

平成31(令和元)年度 事業報告

部門名： 給食課

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備 考
1. 利用者の状態に合わせ、安心、安全な食事を提供します。	◎	米飯の硬さ等調節区別実施。
2. 利用者に満足して頂ける食事の工夫をします。	○	
3. できるだけ、最期まで口から栄養をとり、食事を楽しんで頂ける工夫をします。	○	
4. 旬の食材の使用を心がけます。	○	
5. 安価で良質な食材を、無駄なく使用します。	△	物価が値上がりした商品が多くありました。
実行方針	結果	備 考
1. 嗜好調査の実施。	○	デイサービスで実施。
2. 食事時間の巡回を行い、食事形態の見直し、検討をします。	◎	
3. 研修会に積極的に参加し、情報収集と周知を行います。	○	周知は全て書面にて知らせています。
4. 網走らしい、季節感のある献立作りをします。	○	行事食を取り入れ近隣材料使用。
5. 在庫管理をまめに行い、無駄をなくすよう心がけます。	○	
定量的な目標	結果	備 考
1. 配食サービスの年間食数目標は14,500食とします。	○	年間食数 13,142食
定性的な目標	結果	備 考
1. 食事で季節を感じ「美味しい」と言って頂ける食事作りを目指します。	○	努力していきます。

平成31(令和元)年度 事業報告

部門名： 業務課

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 医療との連携を図ることで、お年寄りの痛みや苦しみ が和らぎ穏やかな生活が続けられるようになります	○	早期受診対応にて長期入院するケースが減り、入院 日数が平成30年度で1,152日に対して平成31年 度は821日と331日減少できました。
2. 地域に愛され、必要とされ、高齢者及び利用される 方々に信頼してもらえる施設になります	○	個別に誕生日会を開催でき、利用者さんたちの信 頼関係も築けました。ショートステイ利用者も常連で 利用していただくことができました。
3. 施設建替えに向けて、施設建設の目的、地域共生、 事業の展開を考えていきます	△	定期的に建設会議を開催し、現場の声を反映できる よう努めました。
4. 基礎介護から専門分野まで職員の能力に応じて学習 できるように研修計画を立てます	△	ユニットリーダー研修2名研修修了。介護福祉士実 習指導者講習会1名受講。介護職員専門研修は家 庭の事情等で研修未参加。
5. 施設で働くそれぞれのスタッフが働きやすい職場にな れるように考えていきます	○	メンタルヘルス対応の研修に2名参加。メンタル面 で体調不良となった時、こまめに相談する場を設け、状 態に合わせて業務内容を変更してできるだけ働きや すい環境を提供するよう努めました。
実行方針	結果	備考
1. 嘱託医、主治医との円滑な関係を図り、必要な時に 必要な医療が行えるようにします	○	病状に合わせて、専門医に相談・受診し症状の改善 に努めることができました。
2. 施設づくりは地域づくりを基本方針におき、それぞれ の職員が個々に勉強していきます	×	それぞれの職員が個々に勉強していく体制づくりま では至りませんでした。
3. 施設建替えについての勉強会を独自で開催しながら、 施設のありようを学びます	○	12月に北見市の光の苑へ施設見学。 2月から建設会議後に現場職員参加で、施設の設 備、必要な備品等の検討会を開催し現場サイドの声 を反映できるように努めています。
4. 施設内・外研修を行い、介護士、看護師としての心技 体を磨き続けられるようにします	○	ユニットリーダー研修などの研修に参加したことで、 ユニットケアの方法等を学ぶことにつながりました。
5. 施設づくりは人づくりであることを念頭に新たな施設 での介護、看護方法を学びます	△	サテライト特養でのユニットケアを経験してもらった ため、介護職員の異動等を検討していましたが、受け 入れ施設の人員不足にて実現できませんでした。た だ、研修会に参加して学びを得ることはできました。
定量的な目標	結果	備考
①入所及び短期入所での稼働率95%を維持できるよ うにします	○	合計で96%の稼働率で目標は達成できたが、空床 延日数が183日と前年度の3倍となってしまう、稼 働率が思うように伸びませんでした。
②毎月入所者40.2名、短期入所7.8名を維持できるよ うにします	△	入所者1日平均39.1人 短期入所1日平均7.9人
定性的な目標	結果	備考
①認知症高齢者、障害を持たれた高齢者の介護の知識 を深め、技術を学び、やさしい心で接します	○	職員内部研修で、「身体拘束とストレスマネジメント」 についての講義を全職種職員が参加し、知識を深め ることができました。
②関わりあった多くの利用者がレインボーハイツで過ごす ことで安心され、楽しさ、喜び、笑顔を増やすことができ るようにします	○	できるだけ安心して楽しく施設で過ごすことができ るようケアプランにも支援内容を盛り込んで対応するこ とができました。

平成31(令和元)年度 事業報告

部門名： 網走レインボーハイツ デイサービスセンター

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用する事で生活に潤いを感じ、笑顔が増えるようなサービスを提供します	○	“デイサービスに来るのが楽しみ”という声が多く聞かれ、笑顔が増えているのを感じます。
2. 利用者の意向に耳を傾ける姿勢を大切にしていきます	○	日々のご利用の中で希望を聞き、可能な限り実現出来るようにしました。
3. 楽しくてほっとする環境づくりをします	△	利用者増加により入浴などで時間に追われることが見られることがありました。現在は改善に向かっております。
4. 地域の特性やかかわりを大切にします	△	外出活動にて網走の四季等を感じて頂くことが出来ました。しかしながら、地域住民と関わりを持つ機会は少なめであったように思います。
5. 新規利用者の開拓を目指します	◎	問い合わせが多く、新規のご利用に結び付けることが出来ました。
実行方針	結果	備考
1. 利用者のニーズを把握し、ケアプランをもとにして適切なサービスを提供します	○	ケアプランに沿った通所介護計画書を作成。プランに沿ったケアの実施を行いました。
2. 利用者の気持ちに寄り添いながらサービスを提供していきます	○	利用者の声に耳を傾けて、サービスを提供することを心がけました。
3. 安心できる環境と楽しい雰囲気大切にします	○	安心してケアを受けることができるホール、お風呂場を意識して進めています。
4. 保健施設、役所、ボランティアセンターなどと協力し、利用者のニーズを満たしていきます	△	外部からのボランティアを呼ぶ機会は少なかったです。
5. 新規利用者を大切に、すべての利用者に継続してもらえるサービスを目指します	○	新規利用者のアセスメントをしっかり行い、継続できるサービスを提供しています。
定量的な目標	結果	備考
1日平均利用者数は、19名確保を目標としています	◎	1日平均20.5人(前年比 +1.7人)
毎月の利用者数は、494名確保を目標としています	◎	月平均530人(前年比 +60人)
定性的な目標	結果	備考
配車の再構築を通じて利用者の円滑かつ負担の少ない送迎を目指します	○	利用者増加によって送迎車が3台→4台体制になり、利用者負担の軽減に繋がりました。
ボランティアなどを活用し、利用者に様々な楽しみを提供していきます	△	外部からのボランティアは呼ぶ機会が少なかったです。

平成31(令和元)年度 事業報告

部門名: レインボーハイツ あいむデイサービスセンター

結果凡例:◎100%、○80~99%、△79%~50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 人と人とのつながりを大切に、「愛(あい)」と「夢(む)」あふれるデイサービスを提供します。	○	利用者様同士の交流、興味のあることを探りながら、サービスの提供を行いました。
2. 人生の先輩である利用者様に対し「親切、丁寧、誠実」を心掛けたサービスを提供します。	○	言葉遣いなどや支援の態度などの接遇に心がけました。
3. いつまでも住み慣れたご自宅で生活が出来るように、通所サービスにて援助を行っていきます。	○	ご自宅での生活の様子などをご家族・ケアマネージャーから情報を頂き、支援につなげていきました。
4. この町に生活をする市民として地域交流、行事へ積極的に参加します。	◎	網走神社祭や4条商店街・市内のイベントに積極的に参加を行いました。
5. 利用定員を意識しながら、稼働率の安定を図ります。	○	定員数を考えながら、新規利用者様や追加利用の調整を行いました。また、定員に満たない日は、家族の受診時などの特別利用を受け入れていきました。
実行方針	結果	備考
1. 利用者、ご家族のニーズに添ったケアの実施。ともに楽しく過ごすことの出来るデイサービスを提供。	○	入浴や着替え、外出・創作活動などご家族や利用者様のご希望を伺いながら、サービスの提供を行いました。ご家族の受診などでの利用追加を行いました。
2. 一人ひとりのケアの充実。利用者の「やりたい事」を実行できるデイサービスを目指します。	○	外出や所内での創作活動等を実施しました。また、利用者様から外出先や創作活動などの希望がありましたので、実施をしました。
3. 外出、体操、創作活動等のプログラムの多様化を進め、楽しく過ごされる場所を作ります。	○	外出時の付き添い職員数や注意点・利用者情報の再確認と整理を行っています。職員のアイデアや利用者様からのご希望を取り入れ、創作活動の幅が広がっています。
4. 地域のイベント、行事への参加。季節を感じられる取り組みを行います。	◎	地域のイベントに参加し、また、創作活動では季節を感じられるように、貼り絵や折り紙など、お雛様などを作り、展示をしました。
5. 加算の取得を考え、単価を上げることを意識して業務を進めていきます。	△	利用者様のニーズを優先し、加算の意識が薄れてしまいました。
定量的な目標	結果	備考
介護保険(要介護・要支援)		
年間実績数8,400件、月700件、1日平均23.5件を目指します。	◎	年間実績数8,420件 月平均701件であり、目標達成できました。
定性的な目標	結果	備考
1. 施設内外の勉強会、研修を通し、スタッフが知識をもってケアに臨むことが出来るようにします。	△	ボディメカニクスや救急救命、嚥下についての勉強会の開催をすることができました。今後は、更なるスキルアップのための研修への派遣を行います。
2. 「おもてなし」の心を持って建物、送迎車の掃除、整理整頓を行います。	○	食器や座布団の交換や、所内の模様替えなどを行い、感染症対策から次亜塩素酸での清掃など、衛生面に留意した整理整頓を行いました。

平成31(令和元)年度 事業報告

部門名： 網走レインボーハイツ 在宅介護支援センター

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者、家族への「丁寧な」対応と「やすらぎと安心感」を提供する姿勢	○	傾聴姿勢は崩さずに利用者・家族へ安心感を提供した。
2. 利用者のサービス管理から健康管理、生活機能向上へ向けた管理	△	常に念頭において実施した。
3. 高齢者の状態像変化への対応強化(認知症・中重度高齢者)	○	状態変化を見逃さず、随時対応している(サービス量、区分変更等)。
4. 医療との連携	○	医療職(医師、看護師、リハ職、薬剤師等)連携を図った。
5. 新規依頼は断らない。要介護のみならず要支援、事業対象者もマネジメントする。	◎	困難事例も含めて断らず、他事業所からのケースも引き継ぎ、積極的にマネジメントを行った。
実行方針	結果	備考
1. 技術、重度化対応知識の習得(ソーシャルワーク+ケアワーク)	△	ケアワークについての学びの機会が少なかった。
2. サービス提供ネットワーク内での利用者の健康情報の共有と予後予測の習得	○	健康情報と予後について常に検討した。
3. 医療と介護の連携(多職種協働)による認知症、中重度高齢者マネジメント、生活機能向上	○	入院時の情報提供や、診察同行し主治医と協働した。
4. ケアマネ自身も支援者になる	○	ケアマネ自身、支援者になり利用者へのサポートを行った。
5. 総合事業への対応継続	◎	両地域包括支援センターの内情を踏まて、積極的にマネジメントAおよびBの委託を受けた。
定量的な目標	結果	備考
1. ケアマネ5名体制とし、特定事業所加算Ⅲ算定 その他加算の算定	◎	7月よりケアマネ1名増員し、5名体制。特定事業所加算Ⅱ算定に変更、初回加算を算定している。
2. 年間1,200件利用(介護給付)	◎	1,595件(介護給付)の実績だった。
定性的な目標	結果	備考
1. 5名体制でのチームワークづくりとフォロー体制の構築	○	ミーティング等により5名でのよりよい関係づくり、連携を図れることができた。
2. 最新のケアを知る(新しい助言へ)	△	学ぶ機会は少なかった。

平成31(令和元)年度 事業報告

部門名: 網走レインボーハイツ ホームヘルパー派遣センター

結果凡例:◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者に「助かった・ありがたい」と感じていただけるようなサービスを提供します。	○	利用者から新たな要望が出た時は、ケアマネジャーにフィードバックしました。
2. 利用者が「自分で判断して行く」ことを助けます。	○	「利用者毎のこだわり」や「やりたい事」等を大事にしてきました。
3. 利用者が困らないで生活できるように、情報提供できるヘルパーを目指します。	△	出来る事を増やして頂くことは難しかったですが、持続する事のサポートはできたと思います。
4. ご家族・町内会・援助者・サービス援助者等とのつながりを大切にする気持ちを見守ります。	△	新しいお付き合いは、なかなか増えませんが、今までのお付き合いを、大切にすることはできたのではないかと思います。
5. 利用者の環境・身体・気持ちの変化に応じた適切なサービスにより、利用者数を維持します。	△	より良いサービスは心掛けましたが、ヘルパー数の減少で、利用者数の確保が困難でした。
実行方針	結果	備考
1. 利用者のニーズを満たす、過不足のないサービスを目指します。	△	ヘルパー同士、担当者会議等で、見直しを繰り返しました。まだまだ、努力が必要です。
2. 利用者が意思決定する場面を意識しながらサービス提供をします。	○	口から発する言葉だけではなく、思いを探って、理解しようと心掛けました。
3. ヘルパーは、利用者にとって、気楽に、安心して相談できる訪問者になります。	○	いつも心掛けていたと思います。
4. 対話を大切にし、ひきこもりがちにならないよう、話題を見つけ、声掛けをし、見守ります。	○	それぞれの利用者が、出来る限り自分の持てる力を発揮して生活できるようサポートできたと思います。
5. 利用者の変化を、素早く感じ取れ、他職種援助者との連携をとれるヘルパーを目指します。	○	同じヘルパーが続けて訪問することで、安心してサービスを受けて下さっていたように感じます。
定量的な目標	結果	備考
年間750件	△	年間724件でした。訪問介護員採用1名。更に利用者増を目指します。
定性的な目標	結果	備考
利用者の痛み、とまどい、喜びに寄り添えるヘルパーを目指します。	○	利用者の体調や、生活状況の変化に気づき、サービス担当者間で連絡、情報共有できたことで、訪問に活かせたと思います。

平成31(令和元)年度 事業報告

部門名： 網走市東部・呼人・南部地区地域包括支援センター

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を継続することができるよう支援する	○	自助努力を基本として家族の助け合い、フォーマルサービスや地域の支えあい等インフォーマルサービス等も活用し対応に努めた。
2. 地域のネットワークを構築・活用し、地域で暮らす高齢者の生活を支える	○	医療・保健・福祉の関係者や当事者団体や職能団体等と連携を図り、市民の温かい支援、協力も得ながら進めてきた。
実行方針	結果	備考
1. 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務～要支援者・事業対象者のケアプラン作成、介護予防事業その他の適切な事業を包括的効率的に実施	○	令和元年度の総利用者数月平均は243名(昨年238名)、月5名ほど増えている。自立した生活が送れるよう支援に努めた。
2. 総合相談支援業務～各種相談を幅広く受け付けて、制度横断的な支援を実施	○	家族問題や心身障害・生活に関する種々の不安などの相談があり、関係者と連携を図り対応した。
3. 権利擁護業務～困難事例・虐待事例への対応、消費者被害の防止等、高齢者の生活の維持を図る	○	諸ケースに対し権利をかばい守るために、関係機関と連携を図り対応した。
4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務～専門職確保、ケアマネ支援と多職種相互間の協働、在宅医療・介護連携の一体的な提供体制を構築	△	センターの人員確保が困難に終わったが、介護支援専門員の支援や様々な職種及び地域関係者との連携を図り、各種会議・研修会に参加した。
5. 認知症施策推進業務～認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられる支援体制作り等	△	網走市やボランティア・地域関係者等と連携を図り、カフェや研修会など開催したが、令和2年2月中旬以降は感染予防の為、諸企画を見合わせた。
定量的な目標	結果	備考
1. 介護予防・日常生活支援総合事業支援・介護予防支援は、1職種40件、委託40件とする	△	直接支援件数は一人平均月61.2件と大幅に上回った。
2. マネジメント方法、手順等の具体化を図り、かつ職種の専門性を深める	○	報告・相談・連絡等の情報交換を密に行い、お互い協働しながら随行してきた。
3. 専門職確保と人材ネットワークの強化、更に地域包括ケアに貢献する	△	多様化、複雑化する課題に対し、更に地域で高齢者を支える体制作りが必要であり、専門職の確保と資質向上が課題となる。
4. 事業対象者及び要支援から要介護への悪化を予防する。(年間60件以下)	○	実数確認平成31(令和元)年度57件
定性的な目標	結果	備考
1. 新規スタッフを含めた4職種の専門分野を活かすチームワークと協働体制を確立する	△	最終的に職員確保が困難な状況となり、個々の負担増となった。
2. 網走市、他圏域地域包括支援センターとの課題の共有、相談事業の専門性向上を図る	○	地域包括支援センター協議会を2回開催したが、その後は各包括の閉鎖等に伴い中断している。情報交換・相談は随時行い解決に向けた。
3. 「地域ケア会議」等を通じた自立支援型ケアマネジメントの支援・ケアマネジャーへの日常的個別指導・相談・支援困難事例等への指導・助言	○	困難事例等に関する地域ケア会議を5回開催、居宅介護支援事業所ケアマネジャーからの個別相談が14件あり、対応助言している。
4. 認知症施策における地域との交流・啓発、認知症初期集中チームとの連携	○	認知症カフェ11回開催、オホーツク認知症地域推進員会議と認知症サポーター講座で「カフェあえる」について紹介している。
5. 個別課題解決から政策提言に導く地域ケア会議の模索、実施を行う	○	社協生活支援コーディネーターに地域ケア会議に参加依頼し、その後、地域代表者会議を開催している。又、資源開発に関する会議も実施した。

平成31(令和元)年度 事業報告

部門名：大曲レインボーハイツ

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者さんに少しでも楽しみのある施設生活の提供。楽しみや目的を持った、大曲地域、大曲だからできるサービス提供方法を確立、小規模多機能の利用者確保に励みます。 ・重度化に対応したまたはそれを予防する為に施設の設備を整え、必要な職員の補充を行ない、家庭的な雰囲気作り、安心・安全・快適な生活が出来るよう環境を整えます。	◎	小規模多機能年間行事の開催。誕生会や、外出、外食レクリエーションの企画、実行しました。夏場の熱中症対策でユニット内にエアコン設置しました。(各ユニット1台)
2. 一人ひとりに合わせた個別ケア、認知症ケアの推進を図ります。	○	ユニット会議等により、一人ひとりに合わせたケアの統一ができています。
3. 一人ひとり、楽しく充実した生活、安心した施設生活を送れるよう、思いやりをもった介護が出来るよう、職員の定着、ユニットリーダー・サブリーダーの育成、基礎介護の向上に努めます。	○	ユニットリーダー研修へ1名派遣しています。
4. 大曲に根ざした施設として、地域との交流・協力・行事への参加を通して貢献できる施設を目指します	○	地域、家族合同食事会や餅つきの開催ができています。地域のお祭り、活動推進協議会への参加。防災訓練の参加。らくらく健康体操の補助員を行いました。
5. 重度化に対応した設備を整えることで職員の定着を図り、安定した稼働率・小規模登録人数の確保に努めます。	○	
実行方針	結果	備考
1. ご家族との外出・交流行事、季節行事の推進、小規模多機能の年間計画の実行をすることで、家族、地域との顔なじみの関係、つながりを継続、維持します。大曲老人クラブ加入者の見直し。 ・各フロアの季節感、家庭的な雰囲気のある環境整備を図ります。 ・AEDの購入・設置。トイレ(1、2、3丁目)の手すりの設置。小規模多機能、浴室床張り替え。各種調理家電の交換。他必要物品の購入・交換。 ・職員の休憩スペースの確保、介護職員の雇用【常勤・非常勤】、介護職員の業務負担軽減ため、家事・用務専業業務職員の補充	◎	地域、家族合同食事会や餅つきの開催ができています。その他、必要物品の交換・購入。職員用ロッカーの設置。トイレ内の手すり設置をしています。 職員の休憩スペース確保は未確保であります。介護員(常勤調理員)と介護職員(非常勤)が増員できたことで、日中の業務にゆとりができました。
2. 認知症の理解を深める為の研修を通じて、疾患の理解・認知症ケアの充実に努め、より一人ひとりの方を尊重した生活を過ごしていただけるよう支援します。	○	
3. 介護の知識・技術向上のために基礎介護、介護記録勉強会の定期実施。各種研修会へ参加します。 ・技術・知識を活用し、利用者の体調変化の早期発見、疾病の重度化・長期入院を防ぎます。	△	基礎介護、勉強会等の開催、研修への参加ができませんでした。
4. 老人クラブ・西コミセン・町内会等行事への参加・協力や運営委員会への参加を継続します。 ・その他大曲地域の自然災害対策委員会への参加などを通じて、周辺施設等と協力しながら地域の発展、活性化に尽力します。	○	西地区地域活動推進協議会への参加、コミセン祭り、ビールパーティーなどの行事参加ができています。その他、地域の防災訓練への参加。らくらく健康体操の補助員として出席をしています。
5. 小規模登録人数の目標平均を維持できるよう新規利用者の確保の為、送迎範囲の把握。大曲、西地区の地域性を理解し、大曲だからこそ出来る利用サービス形態の定着化、他居宅介護事業所や、病院との積極的な交流、小規模担当職員の増員を行ないます。 ・退所者が出た後の新規入所者への移行を速やかにいきます。	○	定期的に小規模多機能の利用相談があります。少しずつ小規模多機能居宅介護事業所のサービスの内容について、他居宅介護事業所や、病院への周知ができています。
定量的な目標	結果	備考
・特養:月平均17.0人 稼働率95.0% ・小規模多機能:登録人数平均11人を維持できるよう努めます。	○	特養稼働率94.9%(前年度92.1%) 小規模平均登録人数9.3人(前年度9.8人)
定性的な目標	結果	備考
・大曲レインボーハイツならではのアットホームな雰囲気の中で利用者・ご家族・地域の方と共に大曲地域に根ざした施設を目指します。 ・臨機応変な対応で利用者・ご家族が満足できるサービスを提供します。	◎	食事会や餅つき等の開催を行っています。また、地域の会議や、催しものに参加することで施設と家族、地域とのつながりが継続できています。

平成31(令和元)年度 事業報告

部門名： 向陽ヶ丘レインボーハイツ

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 少しでも利用者さんが楽しみある施設生活また、目的や楽しみを持った小規模多機能の利用に繋がるサービス提供に励みます。重度化対応に向け設備の修繕を行い、家庭的な雰囲気作り、環境整備への改善を図ります。また、食事を通しての楽しみやケアの充実を図ります。	○	年間計画の作成に基づいて、入居者さんに関しては、施設内での行事企画の実施し、小規模多機能型事業については、月間プログラムに基づいた行事企画の実施等を行いました。フロア内も季節を感じてもらえる環境作りをすることができました。
2. 一人一人に合わせた個別ケアの充実を図ります。	○	利用者さんの状態や既往歴などを考慮しながら、個々に合わせたケアの実施ができました。
3. 職員の想いや根拠あるケアの実現に向けて基礎介護の向上を図ります。利用者さんの些細な変化への気づき、根拠をもった統一したケアの向上に努めます。利用者さんの身体機能維持、向上への取り組みを行います。	○	リーダーを中心として、早期受診対応や医療連携を行うことができました。
4. 地元地域を中心に交流、協力、連携、行事参加を図り、地域や家族との関係が途絶えることのない生活を目指します。	○	利用者さんの重度化や高齢化もあり、交流会数は減少していますが、継続的な交流や行事参加を続けることができました。
5. 目標に向けた入所者の稼働率の安定、小規模多機能居宅介護における登録利用者の確保、登録利用の維持に努めます。	×	特養の稼働率は92.2%。前年度比3.3%下落でした。小規模多機能に関しても平均11人の登録利用実績がありました。
実行方針	結果	備考
1. 年間・月間計画を作成し、季節行事や施設内行事の企画、実行の充実を図ります。各フロアの季節感、家庭的な雰囲気ある環境整備を図ります。施設設備の修繕、修理。(洗濯機の買い替え 10k 1台、1階、ウッドデッキの撤去作業。車両1台入れ替え他、必要備品の購入)行事食や選択食など、『食』を通しての楽しみの充実、嚥下困難者に対する、ソフト食の充実を図ります。介護職員の雇用(常勤1名、家事業務職員の雇用(非常勤)1名、職員の業務分担の見直しを図ります。	○	季節を感じてもらえる行事企画の実施や環境整備は継続して行うことができました。施設の修繕、備品の購入も概ね計画に対し実行することができました。家事業務のパート職員の新規雇用もでき、業務の分担化を図ることができました。しかし、介護職員の補充が中々できていない状態です。
2. 個別ケアの充実に向け、一人一人に合わせたケアに繋がるよう統一したケアを行っていきます。	○	ユニットリーダーが中心となり、ユニットケアの取り組みことで個別ケアを継続的に行うことができました。会議や朝のミーティングを通しケアの統一、確認を実施しました。
3. 特養入居者及び小規模多機能型登録利用者、一人一人に担当職員を付け、個別介護の充実、情報共有の強化を図ります。担当利用者さんに対する定期的なケース検討を実施し、利用者さんの個別介護の充実を図り、職員の知識の向上等に繋がっていきます。ユニットリーダーによるダブルチェックを実施し、体調不良等の早期発見、迅速な医療連携を取れるよう努めます。職員の積極的な外部研修(ユニットリーダー研修、介護職員専門研修等)への参加できる体制作りを心掛けます。	○	必要に応じて、職員の外部研修への派遣を行いました。また、今年度はユニットリーダー研修へ1名派遣しました。主にリーダー会議の中で困難ケースに対するケース検討や随時必要に応じてのケース検討や情報共有を行いました。
4. 地元町内会(グランヒル自治会)への加盟の継続、交流を継続し、地域行事へ積極的に参加します。施設広報紙“にじ色便り”の定期的発行(年4回)、向陽地区への全地区配布の検討。地元老人クラブ(向陽クラブ)への利用者加盟、定期例会・行事参加。運営推進会議を通し、地域の社会資源の把握、地域との情報交換を行います。家族と職員との懇談会、交流会の計画、実施を行います。	○	地域への参加は利用者さんの重度化やマンパワー不足もあり以前よりも減少しておりますが、継続的に繋がりを維持することができました。実行方針に対して概ね計画的に行うことができました。
5. 退所者がした場合の新規入所を10日を目標に速やかな新規入所対応に努めます。小規模多機能型居宅介護事業所の利用者維持を図るため、他居宅介護事業所や病院との積極的な交流、繋がりをもつよう努めます。	△	今年度は退所者は6名、空所日数は86日で新規入所に至る期間が平均14日でした。小規模多機能型居宅介護について、利用相談も随時ありましたが職員の欠員状況もあり、新規受け入れの体制が整わず、新規利用に繋がれなかった点もありました。
定量的な目標	結果	備考
1. 特養:ベッド稼働率96%、総入院日数、年間200日以下を目標に取り組みます。	×	特養の稼働率は92.2%。前年度比3.3%下落でした。入院日数も429日と下半期に長期入院者が複数出していました。
2. 小規模多機能:登録人数 年間平均11.5人、登録利用人数11～12人の維持に努めます。	△	年間平均登録者および実績登録利用者数10.8人で目標数値には若干及びませんでした。
定性的な目標	結果	備考
1. 向陽ヶ丘レインボーハイツだからこその、生活感あふれる施設ケアを目指します。	○	特養部門、小規模多機能部門共に特性を活かした施設作りを今年度も取り組むことができました。
2. 利用者、家族、地域との馴染みの関係作りを大切にします。	○	これまで同様に馴染みの関係作りを考慮して取り組むことができました。

平成31(令和元)年度 事業報告

部門名: みなとレインボーハイツ

結果凡例:◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者の方が日々、穏やかに安定した生活が送れるよう、心身共にサポートします。また、笑顔で楽しめる機会を提供していきます。	○	なるべく希望に沿うことができるような支援を心がけました。利用者全員が満足のいく形には至っていない部分もありますが、今後も皆様の希望に添えるよう努めます。
2. 集団生活の中でも、利用者の方一人一人がその人らしい生活が送れるよう支援します。	○	なるべく個々の生活スタイルに合わせて散歩や外出していただくことができました。
3. 利用者の方が年齢を重ねていく中でも、生活の中で役割を持って過ごしてもらえるよう努めます。	○	茶碗洗いや庭の手入れなど積極的に行なう方や、生活の中で役割りを持って過ごることができた方もいらっしゃいました。一方で、高齢の方などは、できることを維持するのが精一杯の方もいました。
4. 防災の意識を高く持ち、地域に貢献できる施設を目指します。利用者の方に網走の四季を感じてもらえるよう、外出の機会を提供していきます。	×	防災訓練は実施できましたが、地域の方に参加していただくことはできませんでした。また、外出についても、今期は天候に恵まれず全員で外出することはできませんでした。
5. 職員一人一人が介護福祉施設職員としての自覚を高く持ち、日々成長をしていくことを心がけます。	×	人員不足で外部研修会等に派遣することができず、知識を高める機会が少ない状態でした。
実行方針	結果	備考
1. 毎日の健康チェック、異常の早期発見、早期対応により重度化を防ぎます。ストレスのない生活環境の提供に努めます。	○	骨折による入院はありましたが、異常の早期発見・対応はできていました。
2. 利用者とのコミュニケーションを密にとり、その人の希望を汲み取った支援計画を立て、それに沿った支援を行います。	○	利用者とのコミュニケーションをとりながら職員間で情報を共有し支援を行いました。
3. 介護レベルに応じた、生活リハビリテーションにつながる役割を各利用者にとってもらえるよう取り組んでいきます。	△	毎日の体操は概ね継続できました。しかし、個別運動に関しては、対応できていませんでした。
4. 町内会との共同防災訓練の継続を含め、地域交流を積極的に行います。季節行事、外出行事を計画、実施します。	×	町内会の連絡網は整備されていました。しかし、防災訓練に参加する機会がなく、上手に活用されませんでした。また、地域行事には殆んど参加できませんでした。
5. 新人職員の指導、外部研修への参加、介護資格取得等を通じて職員一人一人のスキルアップを目指します。職員各自、あらためて自分の健康管理にも注意します。	×	人員不測のため、外部研修への派遣が難しく、スキルアップの機会を得ることが困難でした。また、職員の健康管理について、各自に注意喚起を行いました。中々シフトのどおりに勤務してもらうことが難しい状態でした。
定量的な目標	結果	備考
特養:稼働率 97%(月平均7.8人)	○	稼働率 95%(月平均7.6人)でした。
定性的な目標	結果	備考
利用者・家族・地域とのコミュニケーションを深めながら、小さい規模ならではの家庭的で温かい雰囲気を大切に施設運営を行っていきます。	△	地域(町内会)の活動には参加できず、会合の際に挨拶させていただく程度でした。特別な行事はできませんでしたが、一部の家族の方とは協力して面会の機会を増やすことができました。

平成31(令和元)年度 事業報告

部門名： 養護老人ホーム ふれあい館

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備 考
1. 自らが望む暮らしが普通にできるよう、ひとり一人の感情や想いを共感できる心温かな入所者本位の施設を目指します。	△	「施設だからできない」を極力無くして、ひとり一人の願いや想いを温かく受容・共感し、その人らしい暮らしが実現できる施設にしたいと思います。
2. 地域住民の一員としての自覚がもてる生活環境と地域との自由、闊達な交流ができる施設を目指します。	△	西地区活動推進協議会の運営、イベント等に積極的に参加・協力しています。ふれあいの家には入所者4人が継続的に参加する等、地域交流を推進しています。
実行方針	結果	備 考
1. 経済的事情だけでなく、養護老人ホームで対応すべき特有の福祉的な生活課題を有した高齢者の入所を優先します。課題を数値化して入所順位を決めます。複雑で多様な生活課題を抱えて入所に至った方々が、安心して穏やかに暮らせる環境と接遇・ケアを充実していきます。	◎	一般1人、特定5人が新規入所となりました。独居4人、身元保証人のいない入所者1人。知的障害、認知症、難病、幻視幻聴、家族が精神疾患といった福祉的課題を持つ入所者を網走市介護福祉課が措置依頼され入所されています。
2. 西地区地域活動推進協議会、大曲町内会、民生委員といった地域の人的資源との連携を深め、施設が地域活動に参画することで、地域の福祉的ノウハウの向上を図ります。	◎	西地区の「ふれあいパーティ」「コミセンまつり」の参加、協力、「地域防災訓練」の共催等、地域ぐるみの施設運営、社会化を進めています。
実行計画	結果	備 考
1. 施設という性格上、在宅では普通にできることに制限や支障が見られます。施設での「その人が望む暮らし」が尊重され、生きがいと意欲の持てる生活を保証します。	○	「世話になるだけでなく、自分も役に立ちたい」という利用者の気持ちが強くなり、食器洗いやテーブル拭き、カーテン開閉、植物の水やりなどボランティア倶楽部の活動がいきいにつながっています。
2. 入所者の虚弱化、重度化が進む中、本人の意志を尊重しながら、網走市・特養・老健、療養型病棟等との連携を図り、本人にとって最も適切な居場所を提供できるよう調整します。	◎	年度内の5人の措置廃止（死亡）者は、入院から死亡に至る日数が、平均11日であり、30日以上入院は1人のみでした。できる限り、施設での生活が続けられるよう、職員の重度者へのケアの充実が図られました。
定量的な目標	結果	備 考
1. 要介護認定を受けている入所者が40人（内介護3以上の方が6人）と増えています。リフト付送迎車両や車イスの整備を行うことで、通院や外出の安全や質を向上させることができるようになります。	○	開設から3年経過し、車イス利用者が20人と増加しています。平均要介護度は、特定が要介護2.17、一般が要支援1.2です。また、車イス5台の補充を行っています。
2. 30年度の転倒件数は、135件（1月末時点）であり、受診を要する事故も15件と増加しています。早期の転倒予防カンファレンス、適切な自助具や設備の充実を図り、転倒の軽減を図っていきます。	◎	転倒について、平成30年度は148件でしたが、平成31（令和元）年度は103件、事故も12件から7件と4割減少しています。ヒヤリハットの原因考察、対応策をしっかりと行い、必要に応じ転倒予防プランを作成したことで減少に至っています。
3. 「うつらない・うつさない・もちこまない」を冬期間のスローガンに職員の健康管理を徹底し、感染症ゼロを目標とします。	△	昨年4月にノロウイルス発生し入所者26人、職員5人感染しましたが、保健所の指導を受け4週間で終息しました。インフルエンザに関しては、1人の感染者もいませんでした。入所者47人、職員25人が予防ワクチンの接種しています。
4. 入所者の健康管理の充実と症状や疾病の早期発見、早期退院を模索し、95%程度の入所率を目標とします。	◎	入所率は、一般で、98.8%、特定施設入居は、96.1%であり、目標を達成しています。空室日数は、一般が0日、特定が46日となった。入院日数は、月平均で39日となりました。
定性的な目標	結果	備 考
1. 日常業務の報告・連絡・相談等の適正な連携を築くために、日勤を中心とした主任支援員を配置できるようにします。	×	日勤のみの主任支援員の配置は、支援員総数の限界から困難でした。現在は日勤業務に加えて、月3～4回程度の夜勤に従事している状態です。
2. 入所者の心身の状態や生活状況を把握し、第三者にきちんと説明できる知識と能力を育成し、受診時や家族等への情報提供での円滑な説明と理解が促されるようにスキルアップします。	○	看護職員の増員によって、入所者の健康管理や心身・病状の把握がされ、その記録や説明が向上しました。診察同行については、ほとんど看護職員が行っています。
3. 身元保証人がいない入所者が7人、年金未受給者が4人といった方々にも認知面の低下が見られます。適切な権利擁護のもと、安心した生活ができるよう成年後見制度の活用を進めます。	◎	身元保証人のいない入所者は、9人と増え、うち後見人選任しているのが2人、生活保護5人。無年金の3人には加算請求し、扶助費を支給しています。